

令和元年度 事業報告

令和元年度は、事業計画に基づき、市当局をはじめ、関係者のご支援とご協力のもと、従業員一丸となり取組を進めた結果、年度末において、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けたものの、好調に運営することができた。

宿泊者については、前年度を548人下回ったものの、16,812人を確保することができた。

全体収支では、689万1,340円の赤字となったが、キャッシュフローベースの収支（減価償却費の要因を除いた現金収支）では950万9,543円の大幅な黒字となった。

これについては、これまで実施してきた9階及び10階の客室及び通路の改修に加え、本年度行った8階のリニューアルの効果が主な要因となった。

一方、平成8年に会館が建設されて以降、抜本的な施設改修を実施していないため、施設・設備の老朽化対策が喫緊の課題であり、そのための資金の確保とともに、長期的視野に立った運営計画の検討が、引き続きの課題となっている。

1. 部門別の状況について

(1) 宿泊部門

年間宿泊者数は、年度後半に新型コロナウイルス問題の影響があったものの、客室のリフォーム効果、ネット予約の拡充、「この世界の片隅に」のファン層の獲得などにより、前年度の17,360人には及ばないものの、16,812人を確保した。

一方、宿泊部門の収入は、リニューアルした客室の増加により、大幅に収益を伸ばした前年度の8,668万8,094円を、さらに50万8,979円上回る8,719万7,073円となり、大幅な増益となった。

(2) 貸会場部門

貸会場部門の昨年度の収入は、豪雨災害の影響により、369万4,866円まで落ち込んだが、本年度は順調に回復し、3年ぶりに400万円台を確保し、418万2,672円となった。

その要因の一つとして、和室タイプの貸会議室の畳と襖をリフォームした効果が考えられる。

(3) 生活相談部門

生活相談事業は、一般財団法人への移行の際、公益目的事業と位置付けたものであり、その目的を達成するための取り組みを進めた。

具体的には、船員やその家族からの電話による生活相談や、訪船等により船員とのコミュニケーションを図った。

2. 施設運営について

(1) 保守管理業者の選定

複合建物全体の保守管理業務については、前年度と同様、(株)くれせんとの間で随意契約により委託した。

会館独自の5階以上の日常清掃、ベッドメイキング等についても、(株)くれせんとの間で業務委託契約を結んだ。

その他施設の保守管理等についても、前年と同様の業務委託契約を締結した。

(2) 設備機器の保守管理等

保守管理業者により、定期整備・点検を実施した。

故障及び不具合が生じた冷温水機や消防設備など、その都度修繕を行った。

日常的な保守点検は職員が交代で行っているが、設備の老朽化により故障は増加傾向にあり、引き続き課題となっている。

(3) 設備の改修

今年度実施した設備等の改修の主なものは次の通り。

① 8階客室と通路の改修

既に改修した9階及び10階と同様に、8階の客室と通路の改修を昨年6月に行った。

これにより、未改修は、全客室(45室)の内、6階と7階の15室となった。

なお、改善要望が多かった洗浄式便座については、8階、9階、10階に加え、6階と7階の和室(7室)は既に設置済みで、残るは7階の洋室7室と6階の洋室1室の、計8室となった。

② 大浴場のエアコンの設置

利用客から好評を得ている大浴場(男女共)にエアコンを設置した。

これにより、夏場における苦情を無くすことができた。

3. 職員関係について

本年5月1日現在の従業員は、正職員11名（館長を除く）、常用パート職員4名、アルバイト職員6名の総勢21名で会館運営を行っている。

職員の待遇については、4月に昇給を行うとともに、7月および12月に賞与（2ヶ月）を支給した。

4. 呉市からの借入金について

一昨年度から返済を再開した呉市からの借入金については、返済計画に基づき、本年度290万円を返済し、3,190万円に縮減した。

5. きんろうプラザ指定管理について

呉市から指定管理者に選定されている、きんろうプラザの指定管理者業務については、本年度も引き続き誠実に業務を遂行した。

なお、本年4月から5年間、引き続き呉市から指定管理者に指名された。